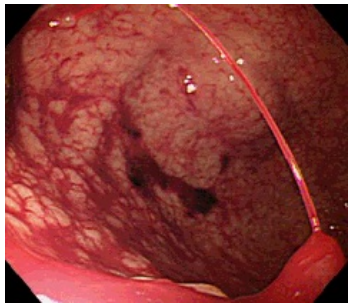
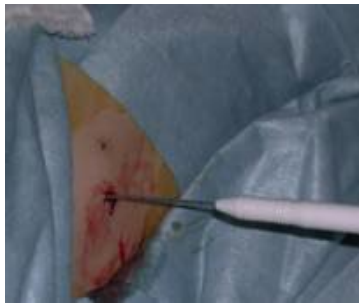
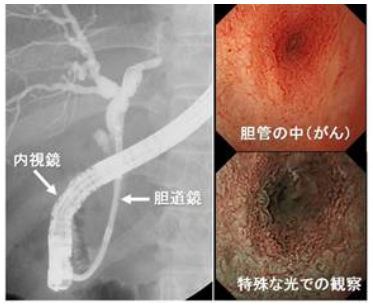
（3）第3内科 （消化器内科）

当科の特色

消化器疾患（消化管、肝胆膵）、消化器悪性腫瘍の診療を通じて、内科医として基本知識、技能、態度を身につけ、患者さんを全人的に診ることができる能力が身につきます。特に内視鏡手技を用いて良悪性疾患の様々な治療を行う内視鏡医や、悪性腫瘍患者を担当することで、がんの診断から化学療法のコツ、緩和ケアを学び、集学的にがん診療ができる腫瘍内科医を目指す基礎を習得します。

一般外来から救急外来で頻度の高い腹部救急疾患への対応を、外来診療・入院診療から学び、プライマリケア能力を習得することが可能です。

魅力ある研修内容

第3内科（消化器内科）の専門領域

肝、胆膵、消化管内視鏡、消化器腫瘍の4つの診療チームのいずれかに所属し研修を行います。良性疾患としては頻度の高い肝炎・肝障害、胆石症、胆管炎、膵炎、炎症性腸疾患、消化性潰瘍、腸閉塞などの診断および治療、消化器癌に対しては内視鏡を含めた各種画像診断、内視鏡治療、エコー下治療、血管内治療などに加え、化学療法、緩和療法などについて研修できます。

当科の研修、ここが良い！

①完全チーム制　：各領域の専門家複数名で1チームを作るため、最先端の治療が学べます。
②充実した指導数：各チーム2名以上で構成され、きめ細やかな教育が受けられます。
③若手医師も配属：チームに1名若手医師を配置し、指導医には聞けないことを気軽に相談できる頼りになる存在がいます。
④やる気があれば：当科の特徴は手技の多さです。手技の基本を学び積極的な研修医には、指導のもとあらゆる手技をしてもらいます。
（例：上部・下部消化管内視鏡検査、ERCP、エコー、血管造影、肝生検など）

より魅力を知ってもらうために・・・

当科の研修は1か月ローテーションから可能ですが、より深い研修のためには2か月以上のローテーションをお勧めします。その場合、専門領域を2つ以上選択することも可能です。

また新専門医制度を見据え、他分野内科のローテーションや、研修中に経験できなかった症例を、研修医2年次に症例経験のための臨時ローテーションなど、希望に応じます。

到達目標（1カ月）

【3内研修全般】
・症候から鑑別疾患を挙げ、必要な検査を計画できる
・血液/画像検査データの解釈ができる

【肝チーム】
・エコー検査が実施できる
・肝機能障害の鑑別ができる
・慢性肝疾患の管理を理解する

【胆膵チーム】
・胆膵内視鏡検査の種類と概要を理解する
・画像所見を説明できる

【消化管チーム】
・消化管検査の適応を理解しオーダーできる
・画像所見を説明できる

【消化器腫瘍チーム】
・がん化学療法の適応を理解することができる
・がんの疼痛への対応ができる

到達目標（2～3カ月）

【3内研修全般】
・消化器領域のcommon diseaseの病態を理解し、適切な診断プロセスを提案できる
・消化管救急疾患の初期対応ができる
・腹部エコー検査ができる
・内視鏡検査の介助・実施ができる
・がん化学療法の適応を理解し実施できる
・がん化学療法の副作用の管理ができる
・がんの疼痛への対応と適切な薬剤選択ができる
・CVカテーテル挿入の介助・実施ができる
・イレウス管挿入の介助・実施ができる
・炎症性腸疾患の診断と管理ができる
・エコーガイド下処置の介助・実施ができる
・腹部血管造影検査の介助・実施ができる

上記は目標の一例です
他にもたくさんの経験と実力が身につきます！

研修スケジュールなど

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 内視鏡検査 エコー検査	病棟業務 内視鏡検査	病棟業務 内視鏡検査 エコー検査	カンファ 総回診 内視鏡検査	病棟業務 内視鏡検査
午後	内視鏡検査 血管造影	内視鏡検査 カンファ 消化管キャンサーボード	内視鏡検査 症例検討会 肝胆膵キャンサーボード	内視鏡検査 エコー下処置	内視鏡検査 エコー下処置

※病棟業務：チームの一員として診療に従事します。診断、治療、患者さん・家族に対するICを含めて、指導医とともに前面に立って診療を行います。

※内視鏡検査：初めは検査介助が中心となりますが、徐々に入院担当患者さんの内視鏡や外来患者さんの検査も指導医の下で担当できるようになります。

※超音波検査：主に入院患者さんの腹部エコーが中心です。肝チームではエコーガイド下処置も頻繁に行っており、介助や施行医として携わることができます。

※カンファ：カンファレンスでは、特に難しい症例や教育的な症例が中心に提示されます。また、自身のプレゼンテーション技術を向上させる良い機会です。

※症例検討会：受け持った患者さんや興味のある領域の症例蓄積データをスライドにまとめ発表します。学会発表の練習や、文献検索法など、学ぶことが多い機会です。